

## 平成20年度宮城県芸術選奨について

宮城県芸術選奨は、芸術活動の奨励と振興のために設けられており、美術、文芸、音楽、演劇、舞踊、メディア芸術の各分野において、平成20年度に活発な創作活動を行い優れた作品等を発表した個人、団体に贈られるものです。芸術選奨に6名、芸術選奨新人賞に4名の計10名の方が選ばれました。

### 1 受賞者 ※功績の概要は別紙のとおり。

#### (1) 平成20年度宮城県芸術選奨〔6名〕

美術〔日本画〕	佐藤	朱希
美術〔洋画〕	中村	喜吉
美術〔工芸〕	平澤	富子
美術〔写真〕	飯沢	耕太郎
舞踊	横田	百合子
メディア芸術	宮藤	官九郎

#### (2) 平成20年度宮城県芸術選奨新人賞〔4名〕

美術〔彫塑〕	高橋	健太郎
文芸	駒田	晶子
音楽	高橋	麻子
演劇	前田	有作

### 2 授賞式

日時 平成21年6月15日（月）午後2時30分から

場所 東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）4階 401会議室

○ 芸術選奨

部 門	受賞者活動名	受賞理由（概要）
美術 (日本画)	さとう あき 佐藤 朱希	<p>美術大学で日本画を学ぶ。河北美術展，日春展，日展での入選，入賞歴が多数ある。平成20年10月，第40回日展に「美野の陽々」を出品し，特選を受賞する。</p> <p>佐藤氏のメインテーマは現代における母子像であり，人物間の複雑で微妙な心理的内容の象徴的造形化に特色がある。</p> <p>県内日本画界にあって重要な役割を果たされる中，自分自身の感性を信頼して作品を産み出す制作の在り方を，さらに追求されることが期待される。</p>
美術 (洋画)	なかむら きよし 中村 喜吉 (53歳)	<p>昭和30年生まれ。美術大学卒業後，安井賞，池田満寿夫記念芸術賞，宮城県芸術祭を始めとして，数々の国際展や国内展で受賞歴があり，注目を集めている。</p> <p>一方で，県内新進作家達のリーダーとして「杜の都のアート展」の実行委員長を務めるなど文化活動の推進役として活発に活動している。</p> <p>地元根ざした文化活動の旗手として，また絵画活動の発展に貢献していく実行力の発揮が期待される。</p>
美術 (工芸)	ひらさわ とみこ 平澤 富子 (72歳)	<p>昭和12年生まれ。長年県内の高等学校で教職に就かれ，美術教育の指導に当たってこられた。また日展では連続6回の入選を果たされている。現在，日本現代工芸美術展に出品し，河北工芸展の招待作家としても活躍されているとともに，新翔工芸会にも作品を発表されている。今後も自身の制作意欲と向き合いながら，見る者へ感銘を与える作品制作が期待される。</p>
美術 (写真)	いいざわ こうたろう 飯沢 耕太郎 (55歳)	<p>昭和29年生まれ。日本を代表する写真評論家であり，飯沢氏の写真評論は国際的にも評価が高い。また新人写真家の登龍門である「写真新世紀」の創設に参加し，審査員を務めている。さらに県内外の大学で講師を務めるとともに，せんだいメディアテークで開催されている「写真講座フォトゼミ」でも講師を務めている。</p> <p>今後も飯沢氏の活動が県内写真文化の向上と発展に繋がることが期待される。</p>
舞踊	よこた ゆりこ 横田 百合子 (53歳)	<p>昭和31年生まれ。大学で舞踊を専攻し，「東京創作舞踊団員」としても活動する。昭和53年に横田百合子舞踊教室（のちに「さくらモダンバレエスクール」に改称）を設立し，後進の指導にあたる。</p> <p>平成20年，さくらモダンバレエスクールが開講30周年を迎え，開催された記念発表会「雅 MI-YA-BI」は，企画，構成，振付すべてを横田氏が行い，高い評価を得ている。</p> <p>今後も宮城県の創作舞踊界の中枢を担う逸材として期待されている。</p>
メディア 芸術	くどう かんくろう 宮藤 官九郎 (38歳)	<p>昭和45年生まれ。第25回日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞，平成14年度芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を受賞している。宮藤氏は，脚本家，放送作家として今日的な表現を意欲的に試み，映画やテレビといったメディア上に独自の作風を築いて若い世代を中心に絶大な支持を得ている。平成20年には監督として2作目となる「少年メリケンサック」を制作し，その個性的な演出も改めて注目された。脚本家，監督，俳優など，様々な分野の第一線で活躍されているが，特に映画の分野において世界的な賞を狙うような斬新で完成度の高い作品が期待される。</p>

○ 芸術選奨新人賞

部 門	受賞者活動名	受賞理由（概要）
美 術 (彫 塑)	たかはし けんたろう 高橋 健太郎 (31歳)	昭和53年生まれ。大学卒業後から、意欲的に個展、グループ展への出品を行っている。特に平成20年に発表された「浮遊する場所」は、「場所」「浮遊感」「力（意志）の方向性」「(力の)緊張感」を意識した新しい方向性を見せた。 宮城県において実験的な作品を展開している数少ない一人であり、新しい表現活動が期待されている。
文 芸 (短 歌)	こまだ あきこ 駒田 晶子 (35歳)	昭和49年生まれ。20歳で「心の花」に入会し、短歌を始める。平成15年に角川短歌賞を受賞する。平成20年には第一歌集「銀河の水」を発行する。宮城県歌壇において、駒田氏の若さとフレキシブルな感性は、パワーと浄化をもたらすものとなるはずであり、大きな期待が持たれている。
音 楽 (器 楽)	たかはし あさこ 高橋 麻子 (36歳)	昭和47年生まれ。県内の大学を卒業後、海外でも音楽を学び、優秀な成績を修められている。国内外でのコンクール入賞歴があり、国際的レベルのピアニストである。また、高橋氏の企画したりサイタル「音楽の旅」シリーズは、多くのクラシックファンを集め、県のクラシック文化の向上に大きく貢献している。今後の更なる活躍が期待される。
演 劇	まえだ ゆうさく 前田 有作 (41歳)	昭和43年生まれ。平成11年に仙台で劇団を旗揚げし、国内外の作品を分かりやすく上演し、演劇の楽しさ、素晴らしさを観客に伝える努力を続けられている。平成20年には「杜の都の演劇祭2008」にて3本の舞台を好演し、企画全体の先導的役割を果たした。今後も地域演劇の土壌を一層広げ、深化される活動が期待される。

《参考》

平成20年度（19年度受賞）までの受賞者数 合計282  
 （芸術選奨161名と7団体、芸術選奨新人賞112名と2団体）

平成 20 年度宮城県芸術選奨受賞者



美術（日本画）【佐藤 朱希】



美術（洋画）【中村 喜吉】



美術（工芸）【平澤 富子】



美術（写真）【飯沢 耕太郎】



舞踊【横田 百合子】



メディア芸術【宮藤 官九郎】

平成 20 年度宮城県芸術選奨新人賞受賞者



美術（彫塑）【高橋 健太郎】



文芸【駒田 晶子】



音楽【高橋 麻子】



演劇【前田 有作】